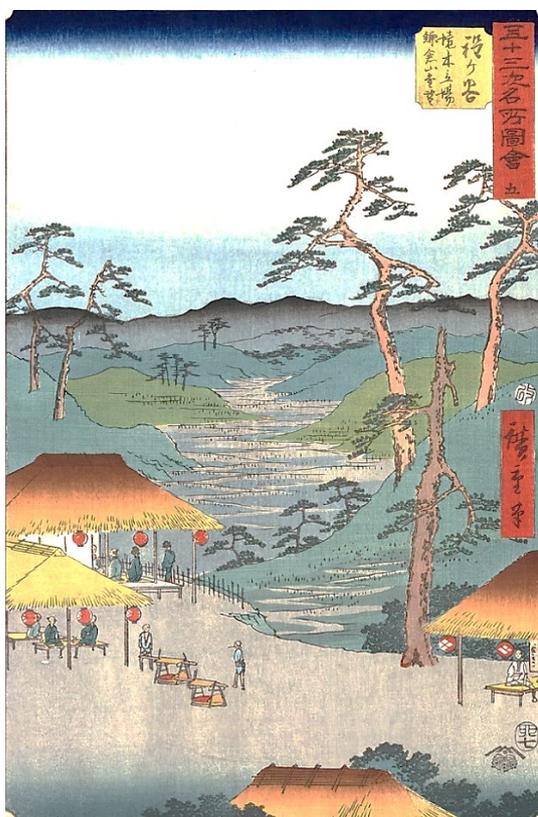


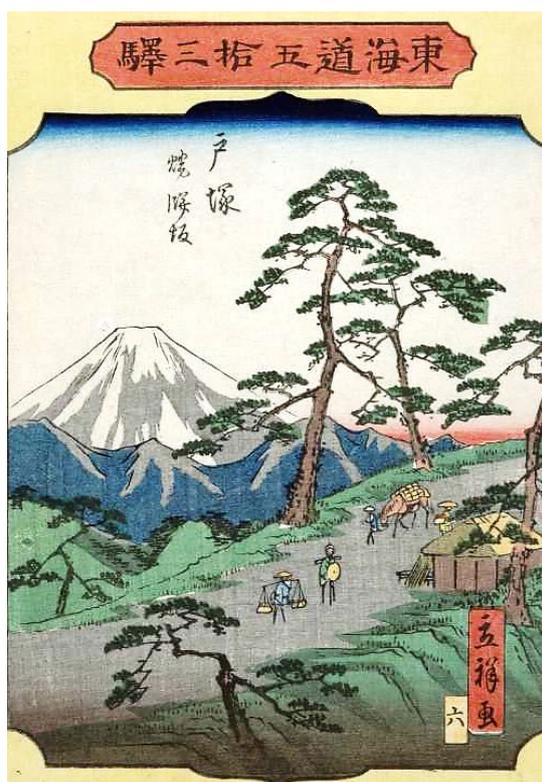
Q5 江戸時代の品濃村の住民生活はどのようなものだったのでしょうか？

A

- ・江戸時代の品濃村の姿を描いた『新編相模國風土記稿』は、残念ながら庶民の姿については全く触れていません。
- ・ただ、戸数は58戸（因みに、平戸村の戸数は47戸）とあり、村の東界に東海道が係っており、幅は3間（5.4m）。高札場があり、小名として「西之谷」、「清水谷」等があり、坂は焼餅坂、谷宿坂、品濃坂があり、溜池は2か所あり、一里塚があり、村の鎮守として白旗社（何故か「頼朝を祀る」とあります。）があり、北天院があると書かれているだけです。そこで、別の資料によって補ってみましょう。
- ・天保13（1842）年9月の「品濃村商人書上」によると、古着屋、鍋釜商い、魚荷付馬立場、餅菓子商、居酒屋茶屋、居酒屋が各1、居酒屋荒物商が2、蕎麦屋が3、茶屋での餅菓子商が5となっています。「茶屋での餅菓子商」が5戸と大変多いですが、このことは何を物語っているのでしょうか。左の浮世絵のように、境木には「立場（たてば）」があり、道中の旅人に「牡丹餅」を商って販



わっていました。下の浮世絵は「焼餅坂」を描いており、茶店がありますが、他の浮世絵を見ると、こうした茶店は道の両側にあったようです。これが「茶屋での餅菓子商」ではないでしょうか。



- ・しかし、この資料は「品濃村商人書上」とあるように、あくまでも「商人」についての資料ですので、その他の職業の実態は残念ながら分かりません。